



「砂鉄で学ぼう!」

企画展

なるほど教室

「樹と木の物語」

「久徴園植物教室」

# 生涯学習

ほくも  
参加したいな



子どもから大人まで楽しめる、科学やものづくりに関するさまざまな教室や講演会、企画展を開催しています。

土・日曜や祝日、夏休みなどに開催する「チャレンジ教室」は、当日その場で参加でき、気軽に実験や観察、工作などを楽しめます。

9月に開催した「チャレンジ教室「砂鉄で学ぼう」」では、川や海の砂から砂鉄を集め、磁石と砂鉄を使って磁界の観察などを行いました。参加した小学生は「砂鉄と砂の重さの違いを利用して砂鉄をとることができると知ってびっくりしました」と目を輝かせました。

「砂鉄で学ぼう」は、子どもから大人まで楽しめる、科学やものづくりに関するさまざまな教室や講演会、企画展を開催しています。

9月に開催した「チャレンジ教室「砂鉄で学ぼう」」では、川や海の砂から砂鉄を集め、磁石と砂鉄を使って磁界の観察などを行いました。参加した小学生は「砂鉄と砂の重さの違いを利用して砂鉄をとることができると知ってびっくりしました」と目を輝かせました。

# 出雲科学館って どんなところ?



ほくは、出雲科学館マスコットキャラクターのリカムだよ。出雲科学館は、小中学校の理科学習と市民の生涯学習の場としての機能を併せ持つ、全国でも数少ない施設なんだ。ちょっと様子をのぞいてみよう。

# 理科学習

小中学生（小学3年～中学3年）が、学校にはない大型実験装置を使ったダイナミックな実験や独自の発展的な内容を取り入れた理科の授業を受けています。

現在、市内すべての小中学校での実施を目指して、新館の増築工事を進めています。



理科学習の様子をしてみよう



小学6年生の理科学習「燃えるってどんなこと」。スポットライトと巨大レンズでたいまつに火をつけます

小学6年生の理科学習「燃えるってどんなこと」の1時間目では、サイエンスホールの大型映像システムや大掛かりな実験装置を使って、「物が燃えるときに何が必要か」について実験を行いながら考えます。

マッチやライターを使わずに火がつくか、空気が無くて物が燃えるかなどを確かめます。スポットライトの光を使った点火実験など、初めて目にする現象もあり、児童たちの目はくぎ付けです。

自分たちが予想したことを実際に確かめていくうちに児童たちはどんどん引き込まれていきます。同時に新たな疑問も生まれます。

2、3時間目は実験室に移り、1時間目に疑問を持った物を燃やす働きをする気体の正体を確かめます。

児童一人ひとりが自分の考えを持って主体的に実験に取り組み、1クラスあたり3人の指導者が、安全に気を配りながらきめ細かに指導します。

出雲市の将来を担う人材の育成に向けた情熱とアイデアが詰まった学習をしています。

# 新館を増築します

新館が完成すれば、全小中学校の理科学習の受け入れが可能になります。平成19年2学期から利用を開始する予定です。



新館完成予想図



# 実験室

「あつ火が消えちゃった!」「こっちは大きくなった!」  
窒素と酸素、それぞれの気体中で物がどう燃えるかを観察

## 地域の中の科学館

出雲科学館では、ボランティアや島根大学の学生など、地域の人たちも教室の指導や展示の解説などに携わっています。

出雲科学館ボランティア  
倉橋 春樹さん

小学生の頃、学校の模型飛行機大会でうちわを改造したグライダーを見て、工夫することに強い興味を感じたことを今も忘れません。

子どもたちにも科学館で感じた驚きを、工夫することや考えることへの興味につなげていって欲しいと思います。

電子工作を教える倉橋さん(左)



出雲科学館は、科学のおもしろさを体感できる場所なんだ!

入館料/無料  
開館時間/10時～18時  
休館日/毎月第3月曜日  
(祝日と重なる場合は翌平日) 年末年始  
TEL 25-1500 FAX 24-8383  
ホームページ <http://www.izumo.ed.jp/kagaku/>



## 出雲科学館への案内図